

ターンテーブルアキュライザーの導入(3)  
-LINN LP12 への適用(2)-

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1 が発売されたとの情報を入手し、前報(1)の計画に従って評価をしていきます。今回も、LINN LP-12 に使用してみます。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴方法

LINN LP-12 の再生の現状は下記のとおりです。

[LINN LP-12 の再構成\(32\)](#)

[LINN LP-12 の再構成\(34\)](#)

LP-12→ZANDEN Model 120(バランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→  
TruPhase

カートリッジは MySonic Signature Gold、アームは Glanz MH-9Bt、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージは ZANDEN Model120 へのバランス入力です。

さらにターンテーブルシートは Elesta の静電気除去シートをしいた、THE FUNK FIRM の Achromat (白色) を、スタビライザーは水準器付きのステンレス製のものを、インシュレーターは ZANDEN ZVA-1 を使用しています。

このスタビライザーを外して TACU-1 に交換します。

音源は聴きなれた下記を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel AA-9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

### 3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

上記はいずれも大編成の曲の解像度と楽器の質感の再生を要求されるもので、Bach の *Sonatas & Partitas* と選帝侯のソナタは TELDEC 逆相、第 4 時定数 High で、ワルキューレは DECCA、逆相、第 4 時定数 High で、メサイアは EMI、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

Bach の *Sonatas & Partitas* の再生上のポイントは、Milstein のヴァイオリンの質感表現とボウイング表現のリアルさです。上記スタビライザーの状態でも、透明度の高い Milstein のヴァイオリンの伸び伸びとしたボウイングが聴けますが、TACU-1 を適用しますと、ややエッジの効きすぎたきらいがあるところが抑えられ、間接音も聴き取りやすく、よりふくよかな印象になり、Milstein のバッハの捉え方が分かりやすくなります。

選帝侯のソナタのポイントは、アンダのピアノの打鍵とペダル操作などの表現力のリアルさです。上記スタビライザーの状態でも、そういったピアノの表情は十分に捉えられていますが、TACU-1 を適用しますと、さらに音の芯の精度が上がり、アンダのピアノの表現力が向上します。

ワルキューレの再生上のポイントは、ソプラノやメゾソプラノの声の質感と位置関係の表現とオーケストラのダイナミズムの表現です。上記スタビライザーの状態でも、歌手達の歌唱のステージ感もオーケストラの迫力も十分ですが、TACU-1 を適用しますと、歌手達の声の質感が向上し、オーケストラの分離が向上して各パートの音が捉えられやすくなります。

メサイアの再生上のポイントは、ソプラノやバスの声の質感と合唱とオーケストラの分離と協和です。上記スタビライザーの状態でも、このような再生のポイントは十分に抑えられていますが、TACU-1 を適用しますと、声や楽器の質感は一層向上し、さらに合唱とオーケストラの分離と協和も向上し、迫力が増してきます。

LINN LP-12 においては、軸受けのカラーセルキットへの交換などで十分に回転が滑らかになっていますが、それでも上記のようにしっかりと効果を確認できました。

### 4. まとめ

LINN LP-12 のシステムにおいてそれぞれ再生上ポイントが明確なアナログ盤再生で TACU-1 の効果を認めました。

以上